

事務事業 No./名 称	☐ サービス部門 総務-05 ☒ 支 援 部 門								統計調査事業	
主管課	総務課			関連課						
分野名	行財政運営									
目標 (目標値)	円滑な統計調査実施のため、登録統計調査員の確保と資質の向上を図る。 登録統計調査員事務研修会出席率 100%									
人口等の データ	データ区分	22年度	21年度	20年度	備 考					
	人 口	177,161人	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)					
	世 帯 数	78,812世帯	78,131世帯	77,430世帯						
	事業の対象者数									
運営資源 状 況	決算値(千円)	2,161	2,287	2,171						
	(国・県)									
	(負担金等)	33	34	47						
	(一般財源)	2,128	2,253	2,171						
	人員配置数	0. 2人	0. 4人	0. 4人						
	人 件 費(千円)	1,808千円	3,667千円	3,619千円						
	協 働 の パートナー									
事務事業 運営経費	総事業費(千円)	3,969	5,954	5,790						
	市民1人当 りの経費(円)	21	34	33						
	対象者1人 当りの経費(円)									
ベンチマーク (県内外自治体 や民間団体と の比較値)	団体名									
指 標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)			
登録統計調査員事務研究会参加者人数	△	目標値	60人	60人	60人	60人	60人			
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退		実績値	19人	-						

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。				②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。			
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。				④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。			
小事業名	H22決算値	評価 適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)				⇒ 方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止			
統計調査事務	2,161千円	①効率性	○	②妥当性	○	③有効性	○	④公平性	○	⇒ □A ■B □C □D □E
	事業の概要	統計調査を行うための基本的な管理事務経費を支出した。								
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要									
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要									
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要									
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要									

中事業の評価結果

事業診断(課長評価)					
H22年度の課題	登録統計調査員が減少傾向にあるとともに、調査員の資質向上を図るために実施する事務研究会への出席者が減少し開催時期や、講演内容の検討が必要となっている。				
課題解決のための取組	統計登録調査員事務研究会は休止し、調査員同士のコミュニケーションが図れないとの意見を基に、情報交換の機会をつくる準備を始めた。				
未解決の課題	課題と同じ。				
今後の方針	今後も引き続き各種統計調査員の確保を図るとともに、登録統計調査員の資質の維持と向上のため、調査員同士の情報交換の場を提供する。				
今後の方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止	⇒	B	※ □事業完了	課長名 総務課長 内藤 昭二

個別事業の概要

(単位:千円)

[illegible]